

第2回基地跡地の未来に関する懇談会

令和元年10月8日



中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想

沖縄県では、平成22年度から、那覇市、浦添市、宜野湾市、沖縄市、北谷町、北中城村と連携し、地主会、有識者等の協力のもと、県全体の発展を見据えた広域的な観点から、今後、返還が予定されている嘉手納飛行場より南の6施設が連携した跡地利用の方向性を示す「中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想」を平成25年1月に策定しました。

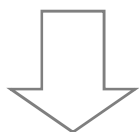
平成25年1月策定
沖 縄 県
関 係 市 町 村

(那覇市、浦添市、宜野湾市、沖縄市、北谷町、北中城村)

跡地利用広域構想の背景

中南部都市圏の現状

- 沖縄本島中南部都市圏は、市街地を分断する広大な駐留軍用地の存在により、長期にわたり、望ましい**都市形成**や**交通体系**の整備、**産業基盤**の整備など、地域の振興開発を図るうえで、大きな課題をかかえてきました。



嘉手納飛行場より南の6施設に関する返還区域（約1,048ha）及び返還時期が示されました。

<平成8(1996)年：沖縄に関する特別行動委員会(SACO)>

<平成18(2006)年：日米安全保障協議委員会(SCC)>

<平成25(2013)年4月：統合計画>



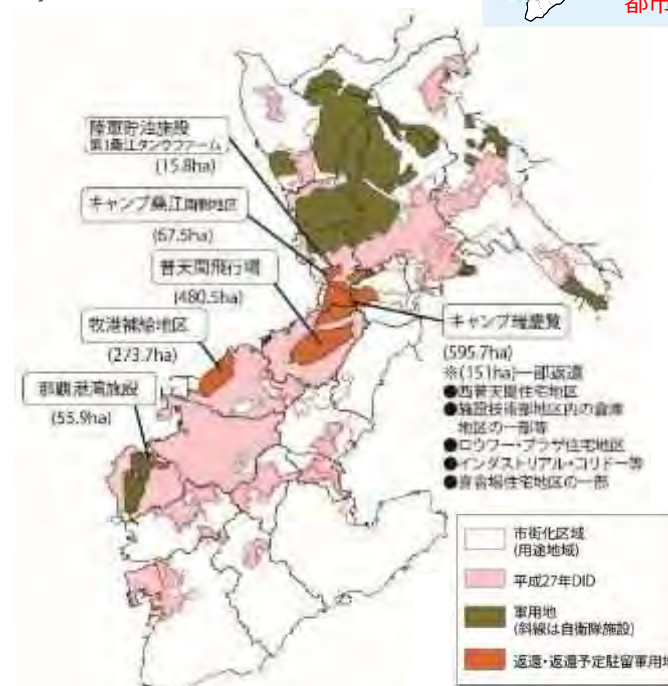
大規模な駐留軍用地跡地利用の可能性

大規模な駐留軍用地の跡地は、

- ✓ 沖縄の**新たな発展**のための貴重な空間であり、
- ✓ 中南部都市圏の**都市構造の歪みを是正し**、**県土構造の再編**にもつながる大きな発展可能性

跡地利用広域構想の可能性

- ✓ 跡地利用は**周辺市街地と連携し**、**良好な生活環境の確保**や**新たな産業の振興**、**交通体系の整備**、**緑化の推進**など**魅力ある都市空間の形成**を図ると同時に、
- ✓ 広域構想では**各跡地の特性を活かしつつ**、**広域的な観点から役割を分担し**、**連携した開発**により、**沖縄全体の発展**を目指すものとしています。



【中南部都市圏の市街地と基地の位置図】



駐留軍用地跡地利用の課題

駐留軍用地跡地利用の課題

- 中南部都市圏の跡地開発は、那覇新都心地区に代表されるように、都市の中核的施設を備えた市街地を形成し、**大きな経済的効果**を生み出しています。
- しかし、これまでの跡地利用は、土地区画整理事業や民間による開発などが行われ、**その大半は大型商業施設及び住宅**が建設されるなど、同様なまちづくりとなっています。
- 今後大幅な人口増が見込めない中で、**これまでと同様な手法では、跡地相互の競合による全体発展の阻害や、良好な環境形成につながらないことが懸念**されます。

↓ 中南部都市圏を一体ととらえ、

中南部都市圏の目指すべき都市構造

- 中南部都市圏は、駐留軍用地の存在により一部が分断されるものの、密度の高い市街地が南北軸に連担している状況にあります。

↓ 返還を契機とした跡地の市街地開発や広域交通インフラ等の整備を進め、

- ✓ **普天間飛行場は、中間に位置し大規模なことから、新たな沖縄の振興拠点と位置づけ、**
- ✓ **社会経済活動の連携と交流によって、那覇市と沖縄市を中心とする2つの都市圏が一体となった長大な都市圏の形成を目指すものとしています。**



跡地利用の全体コンセプト・広域構想の基本方針

コンセプト

各跡地の特性を活かしつつ、広域的観点からの連携した開発により、
中南部の都市構造を再編し、機能を高度化した、
沖縄全体の発展につなげる100万都市の形成

跡地活用による幹線道路の整備、
公共交通ネットワークの構築

自然環境と歴史文化の保全・
再生による豊かな都市環境の形成

跡地振興拠点地区の形成
による自立経済の構築

基本方針

① 広域交通インフラの整備

✓ 広域的な幹線道路の整備

✓ 「鉄軌道を含む新たな公共交通システム」の導入を検討

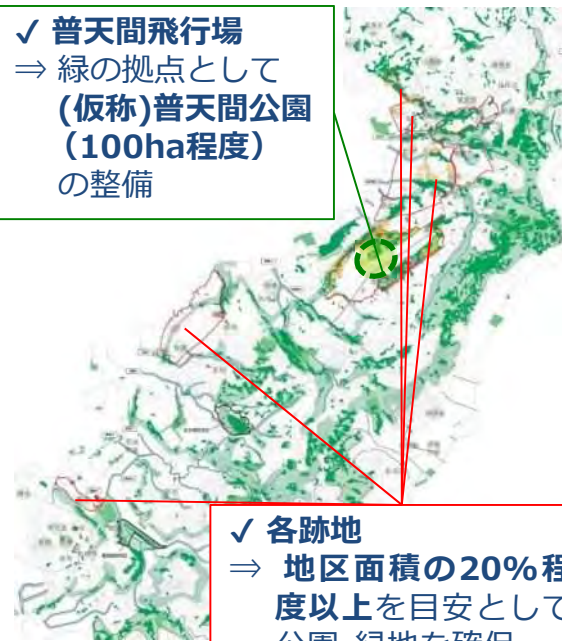


✓ BRT(基幹バスシステム)やLRT、自転車(専用)道路等の導入を検討

② 広域的公園・緑地の整備

✓ 広域的な緑地ネットワークの形成

✓ 普天間飛行場
⇒ 緑の拠点として(仮称)普天間公園(100ha程度)の整備



✓ 各跡地
⇒ 地区面積の20%程度以上を目安として公園・緑地を確保

③ 跡地振興拠点の形成

✓ 立地を誘導する産業・機能の類型(タイプ)を想定し、中南部都市圏での役割分担の方向等を踏まえて配置※

▼想定する産業・機能タイプ

産業/機能	普天間飛行場	牧港補給地区	那覇海軍施設	南側地区	キャンパス集江	第1集江	キャンパス集江	※誘ったキャンパス	※総合計画を踏ま
観光産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リゾートコンベンション産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
文化産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
先端情報通信産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
健康産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医療・生命科学産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
環境・エネルギー産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
都市型農業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際物流流通産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スポーツツーリズム産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海洋産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
複合産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○
産業以外の機能									
国際協力・貢献機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
産業支援機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
研究開発機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専門人材育成機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
広域防災機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※他の産業の立地可能性を排除しない



広域構想の基本方針 (① / 3)

① 広域交通インフラの整備

● 中南部都市圏では、市街地の中心部に駐留軍用地が存在することにより、体系的な交通ネットワーク整備が不十分で、渋滞発生や都市構造の分断などの問題が発生しています。



✓ 跡地を活用した**広域的な幹線道路及び鉄軌道を含む新たな公共交通ネットワークの構築等、県土構造の再編**を目指すものとしています。

◆ 整備の基本方針

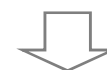
- ✓ 「中部縦貫道路」「宜野湾横断道路」等の**広域的な幹線道路の整備**
- ✓ 「鉄軌道を含む新たな公共交通システム」の導入を検討
- ✓ BRT(基幹バスシステム)やLRT、自転車(専用)道路等の導入を検討



広域構想の基本方針（② / 3）

② 広域的公園・緑地の整備

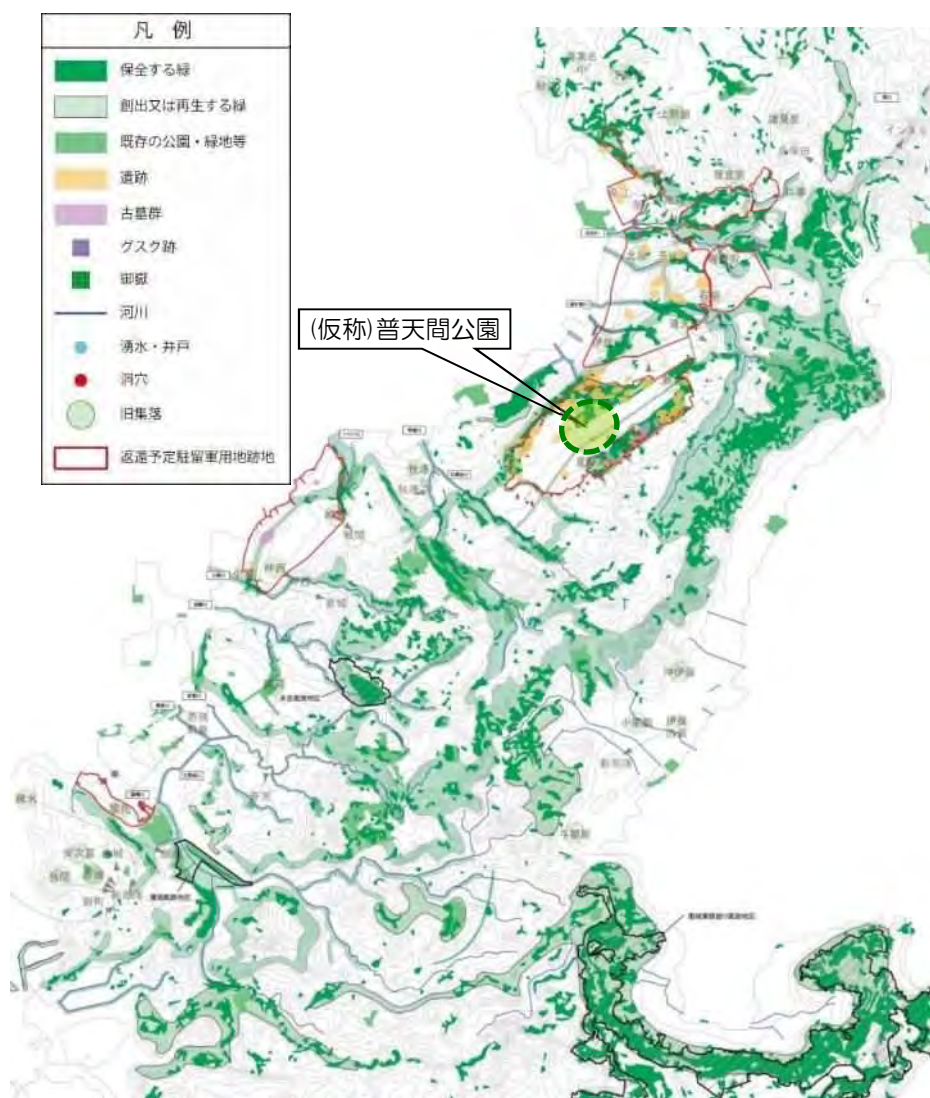
- 中南部都市圏では、沖縄戦や戦後の急激な都市開発の影響で緑地の多くが失われました。



- ✓ 跡地に残された**貴重な自然環境と歴史文化を保全**するとともに、再生による豊かな都市環境の形成により、**新たな緑地を創出し**、つないでいくことで、**広域的な緑地ネットワークの形成**を目指すものとしています。

◆整備の基本方針

- ✓ 中南部都市圏における緑の拠点、平和希求のシンボル及び広域防災拠点として**(仮称)普天間公園(100ha程度を想定)を整備**
- ✓ 各跡地においては、**地区面積の20%程度以上を目安として公園・緑地を確保**



【広域的公園・緑地の整備基本方針図】

